

弘法さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-kouhei.org

皆さん、こんにちは。いよいよ夏本番です。くれぐれもご自愛ください。

昨年「尾張名古屋・歴史街道を行く」杜寺城郭・幕末史」をお送りしています。今年は中世鎌倉街道を東から西に歩いていきます。題して**鎌倉街道を歩く**。今月は**性海寺と大國霊神社**についてお伝えします。

★万徳寺と性海寺

鎌倉街道を折戸(下津)宿から青木川に沿って北上すると**万徳寺**に至ります。

万徳寺は真言宗の大寺院です。創建は八世紀と古く、龜山天皇の勅願寺です。江戸時代には**尾張国真言宗大本山**として五十三末寺を擁しました。

万徳寺の南西約一里にもうひとつの真言宗の名刹、**性海寺**があります。万徳寺と性海寺は、後述する**大國霊神社(国府宮神社)**を挟んで東西に聳えます。



性海寺は空海が熱田神宮を参詣する途上に創建を勧進し、当地の豪族長谷部氏が平安時代に建てたと伝わります。十三世紀に熱田神宮大宮司の子息**良敏**が再興し、北条時頼、足利尊氏、浅野長政、徳川義直らの庇護を受けました。

当地の地名は**大塚**です。境内には地名の由来となった六世紀頃の円墳と思われる大きな塚があり、大王家と関係のある**古代尾張氏の一族**が居住していた証です。

★大國霊神社と夜饗追神事 (よなおいしんじ)

尾張大國霊神社は**国府宮神社**、**国府宮**とも呼ばれます。尾張国の**国府**があった地であることに由来します。神社は尾張国府の創始とともに創建され、尾張国総社として信仰されてきました。

祭神の尾張大國霊神は、尾張氏が当地を拓く中で、土地の靈力を神と崇めたものとされます。言わば**開拓神**ですが、**大國主命**とする説もあります。

毎年旧暦一月十三日の**饗追(なおい)神事**、通称「**国府宮はだか祭**」は有名です。籤(くじ)によって選ばれた**神男(しんおとこ)**と呼ばれる**饗負人(なおいにん)**に触れると災厄や穢れが落ちるといふ言い伝えから、裸の氏子達が神男に群がりま

す。災厄や穢れは**土餅(どべい)**と呼ばれる餅に移して土に埋めて厄落としをします。饗負人は神事の三日前から**饗追殿(なおいでん)**に籠って精進潔斎に務めます。

境内は饗負人の登場を待つ裸男たちで埋め尽くされます。饗追神事の祭典が終わった夕刻、裸の饗負人が大挙した裸男の群の中に飛び込むと、饗負人に触れることで厄除けしようとする裸男たちの押し合い、揉み合いが繰り広げられ、一切の厄難を一身に受けて揉みくちやにされた饗負人が饗追殿へ引きずり込まれます。神職によってあらゆる罪穢を封じ込められた土餅を背負わされ、境内から追放された饗負人は、暗がり土餅を捨てて後ろを振り返らずに帰宅、神職は捨てられた土餅を土に埋めることで厄払いを終えます。

★国分寺と国分尼寺と四楽寺

国府宮神社からさらに西に進むと、**国分寺**、**国分尼寺**の辺り、矢合です。十六世紀に創建された**禪源寺**の南には美濃街道の**稲葉宿**がありました。清洲城主**織田信雄**が小牧長久手の戦いの前に造らせたのが美濃街道の起源とされ、稲葉宿は美濃街道四番目の宿場です。

国分尼寺(法華寺)の東には三宅川に面して**安楽寺**があります。創建当初は観音寺と称し、国分寺の塔頭寺院であったようですが、室町時代に一宮の**妙興寺**の末寺になりました。

国分尼寺の西には**善応寺**があり、**信長**の鉄砲隊長であった**道求一**が再興しました。善応寺の南東方向には**長暦寺**があ

ります。かつては**長楽寺**と称し、国分寺の四方に配置された**四楽寺(正楽寺、平楽寺、長楽寺、安楽寺)**のひとつです。

★子生和橋(こうわばし)

鎌倉街道が通る赤池辺りにも社寺が多数建立されました。赤池という地名は、古来から泥田で蓮が自生していた土地に多い地名です。この辺りの道筋は狭く、曲がりくねっており、**金龍寺**、**等樹寺**、**白山神社**、**八剣神社**等の間を縫うように進みます。

街道は大江川沿いに進み、**三本池(三本木池)**の横を通って子生和橋に至ります。

赤池周辺は、青木川、大江川等の木曾川の中小支流が乱流し、湿地帯が多く、旅人は歩くのがたいへんでした。赤池や三本池の池端は旅人の休憩場所にもなっていたと伝わり、す。池の脇に三本の太木があったので**三本池**です。

三十八所社の南に位置する**子生和橋**の碑文には、源平盛衰記に**源行家**が下津宿に陣を敷いてこの場所であったと刻まれているほか、張州府誌に尾張藩祖**義直**がこの橋を架けたと記します。

地名と橋名の由来は、**照手姫**がこの地で安産したという伝承に因みます。

★日光川と勝幡城

来月は少し南に下って、尾張の歴史に欠かせない**日光川**と**勝幡城**についてお伝えします。乞ご期待。